

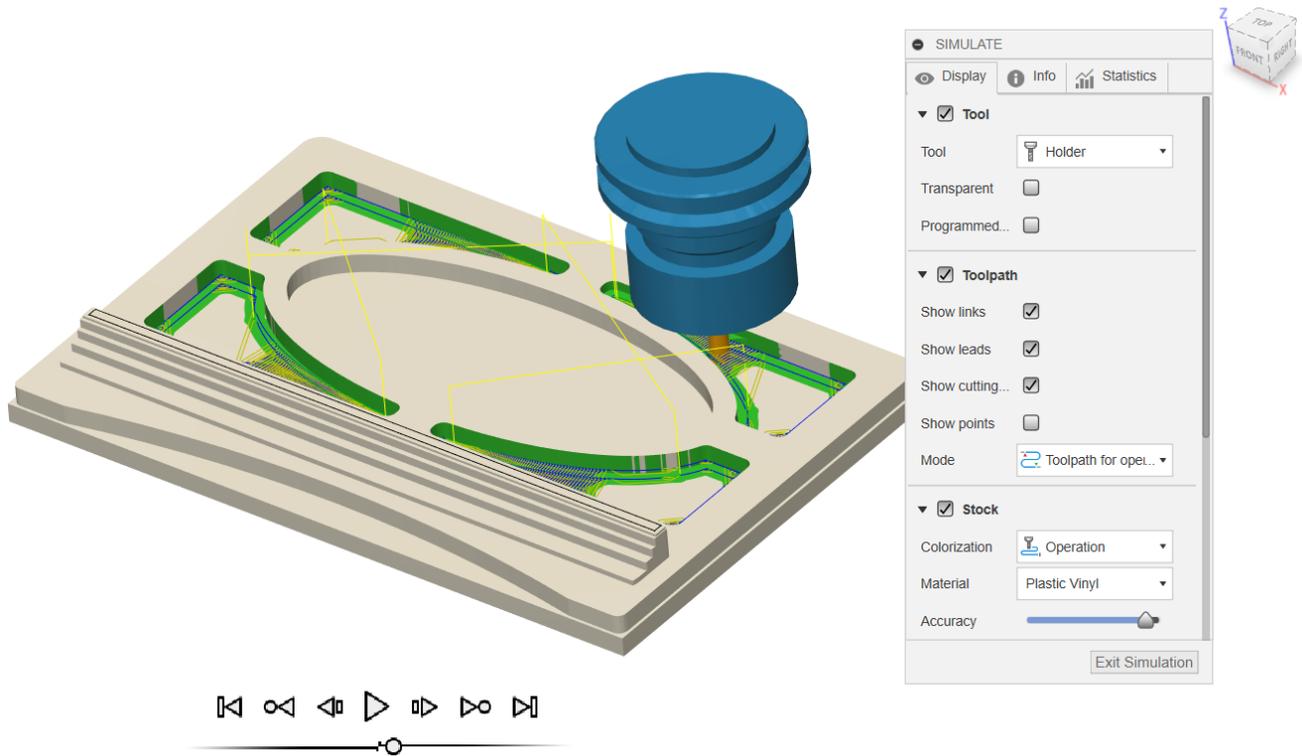
## 練習課題

# 粗取りツールパスを作成する

この練習では、粗取りツールパスを作成して、タブレット スタンドパーツからストック材料の大部分を除去することができます。

### 学習の目的:

- フェイシング ツールパスを使用します。
- 負荷制御ツールパスを使用します。
- パラメータを調整して、複数の粗取りツールパスを効率的に使用できるようにします。



完成図

1. データセット ファイル Tablet stand body practice 3.f3d を開いて、この練習を開始します。

パーツの最上部のサーフェスを加工してサイズを調整し、ストックブロックの上部に凹凸がないようにするために、最初に面ツールを使用することがよくあります。

[面]ツールパスを開き、カッターとして 50 mm の面ミル、工具 1 を選択します。[パス] タブで、ストックブロックの外側の 13 mm の材料をカバーするようにストックを設定します。これにより、成形品全体が高さに向くようになります。

**注:** [ジオメトリ]タブを使用してパーツの最も高い点を選択し、タブレットのシェルフのエッジのみを向けることができます。ただし、後のツールパスで予期しない工具が当たらないように、パーツ全体を向く方が安全です。

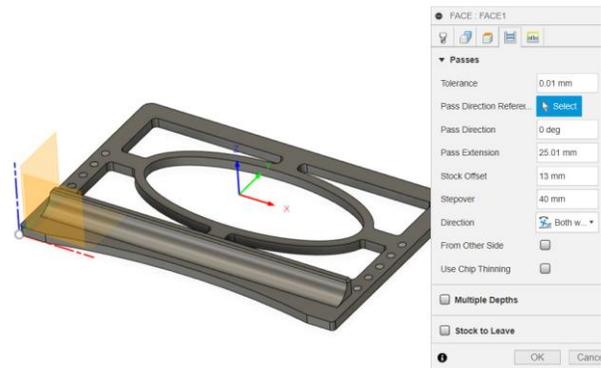


図 1. [面]ダイアログ

2. ポケットの材料の大部分を粗取りするには、[3D] > [負荷制御]ツールパスを使用します。18 mm のフラット エンドミルを選択し、残りの部分は Fusion が処理します。

**注:** 専用の粗取りミルや高速加工のパラメータを使用している場合、ツールパスは大幅に異なる場合がありますが、既定ではプロジェクトの外観が大きくなります。

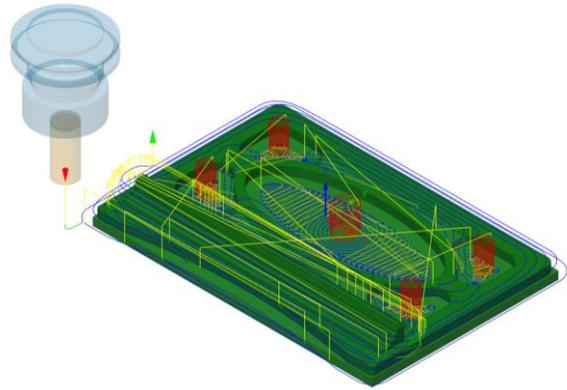


図 2. 粗取り工程のツールパス

3. ポケットのコーナーに近づけるには、3D 負荷制御ツールパスを再度繰り返し、6 mm フラット エンドミルの工具 #3 に切り替えます。[ジオメトリ]タブで[選択]を選択して[加工境界]をアクティブにし、楕円を囲む 4 つの対称ポケットの下部エッジ輪郭を選択します。この小径エンドミルにより、これらの形状の全領域を加工して、プロジェクトの他のフィーチャと同じ規格で粗取りすることができます。

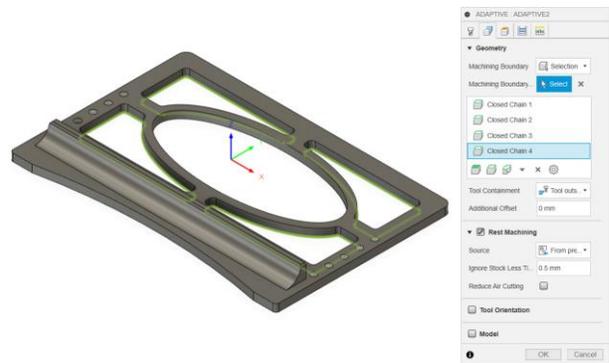


図 3. 負荷制御ツールパスの設定です。

この操作は、最初の負荷制御ツールパスのように削り残し加工の境界を選択せずに実行することもできますが、このプロセスでは不要なツールパスが多数生成され、このプロセスに時間がかかります。粗取りが必要なことを特定することで、プロセスを簡略化し、処理速度を上げることができます。

4. [マシンを使用してシミュレート]ツールを使用して、作成したツールパスが想定どおりに動作していることを確認します。成形品全体を粗取りして形状を作成し、仕上げ操作の準備を整える必要があります。

シミュレーション後のツールパスには赤い警告は表示されず、表示されているすべてのサーフェスを粗取りできる必要があります。

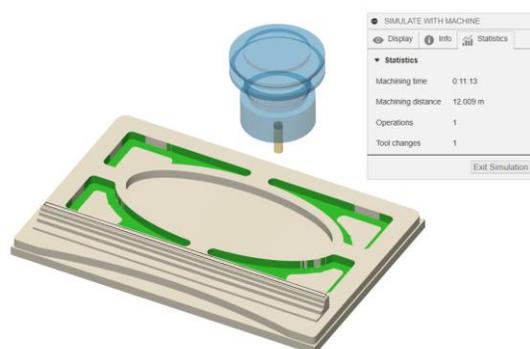


図 4. シミュレーション後のツールパス